



“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”

THE MAC JOURNAL

三菱商事アグリサービス株式会社

2009年11月25日発行ラインナップ

・相次ぐ大手企業の農業参入

・農事組合法人「百笑倶楽部」の

収穫感謝祭

相次ぐ大手企業の農業参入

西日本高速道路グループが農業参入発表

規制緩和による一般企業の農業参入の自由化は、この数年多くの大企業が農業参入し、失敗し、撤退している事例が多い中で、新たに西日本高速道路グループで高速道路の点検業務を担当する子会社、「西日本高速道路エンジニアリング中国」(広島市)が来春、広島県内でコメや大豆などの栽培に乗り出す事を22日発表した。一般法人でも農地が賃借できる特定法人貸付事業(リース方式)で、広島県北広島町で農地約10haを確保し、来年4月から水稻や大豆、米粉などを栽培して初年度は売上高700万円を目指すという。また、生産した農作物は、高速道路のサービスエリア(SA)などでの販売予定である。事務所のある山口、岡山県内でも農業への参入を検討し、将来的には農地を70ha規模に拡大することを目標に掲げている。

これまでも生協、スーパー等が自ら農地を所有せず農業生産法人との委託契約を通じて間接的に農業に参入していたが、農業生産法人の構成員の条件も緩和されたので企業が直接農業法人のメンバーとして経営に参画することもできるようになった。そのため異業種からの農業参入が相次いでいる。2008年9月現在の調べでは、公共事業の減少で一時は建設や土木関連企業からの参入(104社)が多かったが、最近では外食やスーパーなど食品企業(65社)が目立ってきた。産地偽装など「食の安全」を脅かす事件が頻繁に起きたり、食品廃棄物のリサイクル(12年度までに小売業で45%達成)が喫緊の課題になったりしていることが背景にある。農業参入を4月中旬に明らかにしたJR東日本も、資本の大半を出資する子会社が、茨城県のJAやさと等と農業生産法人を設立した。「エキナカ」店舗などで出る食品廃棄物を、堆肥(たいひ)に再利用する農園の営農指導を同JAがしていたことが縁で共同出資となっている。JR東日本は「安全で安心な野菜をエキナカ店舗などで使うほか、野菜販売も手掛けていきたい」と意欲的で、農業のノウハウを蓄積してほかの地域にも広げていく考えだ。

最近の大手企業等の農業参入事例

参入時期	会社名	栽培農産物、農業関連
2008.05	トール	パプリカ、ブロッコリー、宮城県登米市から農地リース
2008.07	東急ストア	野菜、提携法人へ社員2名派遣
2008.08	豊田通商	パプリカ、宮城県栗原市で生産法人設立
2008.08	イトーヨーカ堂	野菜、堆肥工場、千葉県富里市に生産法人、埼玉、神奈川にも
2008.10	JR東海	野菜、愛知県内でレタスの水耕栽培
2008.11	モンテローザ	水菜、サツマイモ等茨城県牛久市でリース方式で2ha 有機JAS
2009.01	九電工	未定、休耕地利用、生産法人設立予定
2009.04	JR東日本	野菜、茨城県石岡市にJAやさとと生産法人設立
2009.06	生協ひろしま	野菜、JAと行政と連携して遊休地を活用した生産法人設立
2009.07	サッポロビール	ワイン原料ブドウ(子会社サッポロワインと長野県池田町の出資)
2009.07	イオン	野菜(茨城県牛久市で自社PB野菜生産 販売)

* 2007年以前では、ワタミフード、サイゼリア、カゴメ、モスバーガー、マンズワイン、メレシャン、阪急百貨店、キュービー、オムロン、プロミス、キューサイ等がある。

今年7月に、流通大手イオンの農業プロジェクト「イオンアグリ創造」について当紙で紹介したが、イオンは、トップバリュ・グリーンアイのAQギャップがあるが、今回イオン牛久農場ではJGAPの認証取得を目指している。また、イトーヨーカ堂の富里農場も今月JGAP審査予定である。両農場とも、安全で安心な食材を求め「川上」と連携、生産から販売までの過程をきちんと把握する狙いがある。(次ページへ続く)

(前ページより続く)

企業の農業参入は過去色々成功、失敗事例がある。大きな投資が、短期に収益に結びつかない自然相手の農業では、赤字でもあきらめず初志貫徹する、新ビジネスに果敢に挑戦しようとする全社一丸となった機運が必要である。担い手の高齢化や耕作放棄、それに販路の開拓に悩む産地にとって、大手企業の農業参入は魅力的である。大切なのは、進出企業が農地を農地として有効に活用し、地域と連携しながら営農活動を行っているか、それが農業者や地域の自立に役立っているかであろう。

アグロ・イノベーション2009開催

会場：幕張メッセ(11/25 - 27)

農業生産、植物工場、青果物の流通・加工から販売現場までの、製品・技術・サービスが一堂に集結する『アグロ・イノベーション2009』が、11月25日(水)～27日(金) 9:30～16:30まで幕張メッセ(千葉県)で開催される。「消費者に信頼される安全で高品質な青果物を食卓に」届けるための技術イノベーションに関する情報を紹介する。主催は社団法人日本能率協会。農業・園芸生産技術展、青果物流通・加工技術展と、展示と特別セミナー、カンファレンス(専門会議)が同時に開催される。特別セミナーでは、食の安全・安心に対する消費者の関心の高まりを受け、消費者に信頼される高品質な青果物を安定供給するための生産技術の革新や、食の安全を消費者に保障する青果物流通システムの確立などをテーマにしたセミナーが無料で開催される。

テーマは、「食の安全・安心」その実態と対策、青果物鮮度保持に関するプラスチックフィルム包装の技術動向とその事例、コーネットの農産物流と産地との取り組みについて、持続的高収量生産に向けたオランダ施設園芸業界の取り組み、サイゼリヤの青果物契約の考え方及び手法、養液栽培など農業への光触媒利用技術、循環型農業生産を目指したバイオマスの燃焼等による新エネルギー利用、皆で実現する夢のある生産と消費、パルスシステムの産直政策と生物多様性、モスフードサービスが取り組む農業との連携、イチゴのクラウン温度制御による省エネ技術、ラベル製造に於ける環境対策について、GAPの現状とJGAPを活用した売れる農産物、イトーヨーカドーの青果部門におけるMD戦略について、植物工場を中心としたアグリビジネスの展望、青果物流通システムの変化とサプライチェーンの構築等多彩である。

尚、カンファレンスは、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張の2階ホールにて、3日間10:00～15:00開催される。



農事組合法人『百笑倶楽部』の収穫感謝祭

農事組合法人 百笑倶楽部(滋賀県東近江市)の収穫感謝祭が11月22日盛大に催された。今年9月24日にJGAPの穀物第2.1版で認証を取得したこともあり、感謝祭は大変盛り上がった。最初にJGAP協会のビデオで研修を(復習を兼ねて)してから、餅つき、近江の座敷音頭、地元出身で大阪の郵便局長さんのマジックショーと酒宴は続いた。集落営農組合では滋賀県初。地元の農業高校の学生達やマスコミが審査の見学に集まったという。アラ還世代が1年がかりでのJGAP挑戦だった。来年は、周辺の他の生産者達も一緒になって団体での認証に取り組む計画だ。青果、米粉の加工、レストラン、産直、ネット販売などまだまだ色々挑戦すると張り切っていた。(名古屋支店;岡本)



連日テレビで放映されていた、バレーボール。次のプレーをする仲間の為に自分が今すべき事を瞬時に判断する試合を見ていて、日常にも通ずることがあるとふと思いました。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp